発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　平島　敏治

賃金闘争特集

附録　みいけ

好況で安定した資本陣営

儲かっているから出すだろう　という考え方は甘い

いま日本の経済は神武以来といわれる好況気に潤いている。この好景気を背景に政府、経営者は一挙に独占資本の集中と蓄積を図り、作業量の引上げと賃金据置の強行策に出ようとしている。この好景気の原動力になつた労働者の生活は会社の好景気の反映もなく、時間外労働と能率給に身体をすりへらし、わずかに生活を支えている状態である。いまこそ労働者が神武以来の一大闘争を組み、神武以来の労働者のあるべき賃金を獲得すべきである。その闘いを十分理解して貰うため、みいけ編集部では企画会議をもつてもらいその情勢分析を十分になして貰つた。（出席者　宮川組合長、北岡副組合長、河野書記長、花園、鍋地次長）

※神武以来の好景気といわれている中で、今次春季闘争は展開されていますが、今度の賃上げ闘争は安易にベースアが出来るんじやないかという見方があるようですが、先ずそこらあたりから一つ

▽いやいやそんな見方はとんでもない見方で、決してそんな生やさしいものではありませんよ。我々が過去経験したように昭和二十五年の朝鮮ブームの時だつて掘ればすぐ金になつた。しかしそのはね返りは我々に廻つてこなかつたように、景気が良いからといつて、その利潤を賃金に廻す事なく、資本の蓄積に重点をおく事の方を、資本家は当面の最大急務としているようですね。自己資本の蓄積、云いかえれば、景気のいい今の中に「ためこんでおく」この絶好のチヤンスを逃さず、貯め込む事は他人の融資をあてにせず自己資本で設備投資の拡充拡大改善を図ろうとし、又一方投資を行う等企業にとつては将に至上命令とでもいうべき機会でしようね

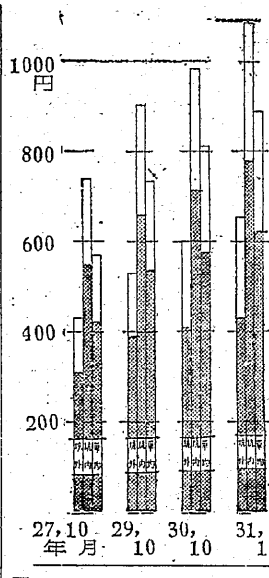
※そう云えば昨秋闘われた鉄鋼、造船がそのいい例でしようね。

▽全くですね、鉄鋼、造船の二大産業はまさに神武以来の好景気に恵まれ、しかも前例を見ないといわれる程の大闘争を組織しながら、資本家の頑強な抵抗にあつて、鉄鋼は二、五〇〇円の要求に対して七〇〇円（神戸製鋼は六〇〇円）の賃上げと五、〇〇〇円の一時金、造船は一、二例外を除き六〇〇―九〇〇円で終止符を打つていますからね

※利潤は設備投資にまわすといつた独占資本の攻勢に屈服したわけですね。

▽だから石炭の需要がぼう大に約束されている今日といえども「景気がよいから上げてくれるだろう」という甘い考えでは賃闘に立ち向えないわけです。

▽終戦以来いままでは向うが不安定だつた。そんな時は極言するとハツタリ戦術で拠点をとつていた闘争が崩されてきた。もうそんな生はんかな闘争は通用しなくなつたと見なければいかんのじやないかな。



高まつている国内生活水準　要求の根拠に信念を

▽今の収入でも食えないことはないんじやないか、ストライキやつても闘いとつた額は少額で、かえつて赤字になるつていうことだけど、たしかに最近の我々の賃金は若干増えているにとは事実であろう、だがこのことは別に数字をあげて説明しているように坑内外平均して四二%以上もの基礎外賃金を含んでの給料袋である。

▽我々が肉体の消耗によつて社会的水準に遅れついている事に気がつかないで、実質賃金が上つているかのように錯覚を起すことは非常に危険であると思う。

▽考えて見てもわかるように、一年前の一万円と今日の一万円が同じ価値がないことも周知の通りで、社会水準は日毎に我々の出費を多く要求してくるものである。いまこそ労働者が神武以来の一大闘争を組み、神武以来の労働者のあるべき賃金を獲得すべきである。その闘いを十分理解して貰うため、みいけ編集部では企画会議をもつてもらいその情勢分析を十分になして貰つた。（出席者　宮川組合長、北岡副組合長、河野書記長、花園、鍋地次長）

安定してきた独占資本に対して闘いをいどむんだから、よほど腹をすえてかからんといかんでしようね。

※全くですね。すると今度の闘争は「景気が良いから逆に大闘争に発展するぞ」と一人々々の決意が必要になるわけですね。

賃闘を勝抜くには！　春季賃金闘争特集号

闘争のヤマは三月　練り上げられた九つの闘争指標

▽春季闘争推進の基本的考え方は先ず闘争目標、特にその中心的統一目標を明確にして闘うこと次に産業別統一闘争に耐え得る機構と組織の確立を強力に推進し、そのため中央、地方共闘態勢を整備充実させ、全労働者の闘いの最高のヤマを三月中旬と下旬に集約するという考え方ですね。

▽闘争目標は(1)産業別最低賃金の獲得と(2)最低賃金八、〇〇〇円の法制化を二本の柱に(3)地方財政確立（地方公務員の首切りと賃下げ反対）と減税(4)健保法改悪反対、社会保障の拡充(5)日雇労働者の賃上げと就労日数の増加(6)米の統制撤廃反対(7)教育文化言論の統制反対(8)国鉄運賃を初めとする諸物価の値上げ反対(9)公務員制度の改悪反対等全九項目の盛りたくさんなものですが、どの項目も夫々全産業、官公労の労働者に直接関係あるものですからね。

▽全くだ、神武以来の好景気とかなんとか云つてるけど、その姿は下積み階層には全然及んでいないのが実態だ。

例えば大企業と中小企業という風に見た場合、中小は相変らず不況であり、労働者の生活水準は依然として低く失業者は解消されてない、いわゆる「好況の影にある我々と中小企業」

※しかし最低賃金八、〇〇〇円の法制化は我々大手にしてみればあまりピンとこないんじやないかな。

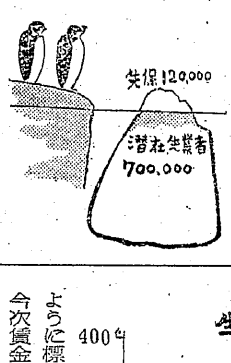
▽最賃法の闘いは昨年度に引き続き今年で二回目の闘いなんだが中小企業においては八、〇〇〇円をはるかに下廻つている労働者がいかに多いかを見た場合、このような低額所得者が多ければ多い程、我々の賃金もそれとの比較において引下げられることを考えれば出来ないと思う。

▽今全国には完全失業者が七十万人と云われ、失業保険受給者はその氷山の一角にすぎない二二万である。好景気と雇用の増大等と宣伝されているけど、全く詐にならんよ。

▽全くだ、神武以来の好景気とかなんとか云つてるけど、その姿は下積み階層には全然及んでいないということであつて、好景気とか不況とかで賃上げの理念が変るものでないということなんですそういうことで賃上げの根拠が変つていたら、好景気は賃下げの根拠になるのでその点注意せねばいけないでしようね。

※では今次春季闘争の性格についてふれて見たいと思うんですが

▽問題は賃上げの根拠を明確にと



※本当ですね、日経連がいつも用いる賃金抑制の口実である「大企業の労働者と零細企業の労働者の格差が開きすぎる」のを我我の闘いによつて、我々自身の引上げのためにも中小企業の最低賃金を保障すべきですね。

▽そうだ最賃法の闘いは大企業労働者と中小未組織労働者の溝をなくするためにも又我々大企業の闘争にブレーキをかけられないためにも闘いとらねばならんと思うね。

▽そりやそうでしよう。いうまでもなく「米」と「石炭」は人間と産業の夫々の主食と云われているんだから…

従つてこの二つの原料が高価になれば総ての物価に影響し、コスト高、製品高となつて、ひいては輸出不振の原因に発展する即ち「基幹産業であるが故に」石炭の価格は安くなければならず、価格を低くおさえるためには五〇%を占める人件費を上げてはならないという政府、日経連の基本的考えが低賃金政策として一貫することは当然のことでしよう。

▽次に景気の変動が挙げられるでしよう。

即ち一般的不況に備えての対策が予想されるんじやないんですか。

過去の体験からも、また経済の法則からしても好景気が四年も「五年も続くことは殆どあり得ないことなんだから…

▽好景気から投資拡大、そして生産増強、ひいては過剰生産につながり物価上昇或は購買力の頭打ちとなつて不況へと循環してくるものであつて、殊に底の浅い日本経済は、国際的影響に極端に左右されるし、一寸したつまずきでもたちまち不況に逆転する可能性を持つているので、今日の好況もそう長く続かないと見る方が賢明でしようね。

標準作引上げと基準外でゴマ化されるな

※産業別最低賃金の闘いも最賃法の闘いにまして大変ですね。

▽全くだ基準賃金の引上げ闘争は生はんかな考え方では闘い取れんね。

石炭の場合は特に重要な指標として標準作業量引上げ阻止の闘いを忘れてはならぬと思う。

▽石炭需要拡大に伴う供給の増強を昨年経営者では既に決定しているし、儲かつているから賃上げは簡単だろうなんて思つているとと、標準作業量引上げがドカンとくるだろうな。

※昭和二十六年までは賃金上昇と標準作業量引上げは、イタチごつこの状態でしたからね。あんなことは二度と許せませんね。そのためにも態勢確立というのが重視されてくるわけですね。

▽全くです、そこで先程もふれたように標準作業量引上げが必ず今次賃金闘争には不可欠の条件として経営者側から持出される事を予想すると共に、基準内賃金の獲得が重大な意味を持つことを理解せねばならんでしよう

▽標準作業量引上げが我々にどんな影響を与えるかは多言を要しないと思うので、基準賃金について若干ふれて見ると、低賃金政策が頑強に支配することはいうまでもないが、たとえ若干の賃上げを認めるとしても、恐らく基準外で操作しようとする事も計算に入れておかねばならないと思うね。

▽そりやそうでしよう。いうまでもなく「米」と「石炭」は人間と産業の夫々の主食と云われているんだから…

従つてこの二つの原料が高価になれば総ての物価に影響し、コスト高、製品高となつて、ひいては輸出不振の原因に発展する即ち「基幹産業であるが故に」石炭の価格は安くなければならず、価格を低くおさえるためには五〇%を占める人件費を上げてはならないという政府、日経連の基本的考えが低賃金政策として一貫することは当然のことでしよう。

▽次に景気の変動が挙げられるでしよう。

即ち一般的不況に備えての対策が予想されるんじやないんですか。

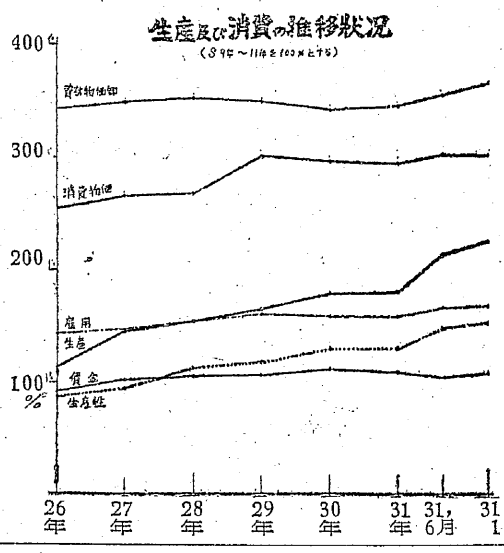
過去の体験からも、また経済の法則からしても好景気が四年も「五年も続くことは殆どあり得ないことなんだから…

▽好景気から投資拡大、そして生産増強、ひいては過剰生産につながり物価上昇或は購買力の頭打ちとなつて不況へと循環してくるものであつて、殊に底の浅い日本経済は、国際的影響に極端に左右されるし、一寸したつまずきでもたちまち不況に逆転する可能性を持つているので、今日の好況もそう長く続かないと見る方が賢明でしようね。

好況に資本蓄積狙う会社側

※そこで景気がよいからといつてその利潤を賃金に廻さずに次の理由として挙げられる「社内蓄積」という事になるわけですね

▽そうです、景気がよくて安定してくると独占資本は更に強固な構えで対決してくると思わねばなりません。

※ではここでしばらく眼を転じてわれわれを取りまく経済状勢について分析して見たいと思いますが。

▽昭和二十九年の後半から今日にかけて、確かに西欧諸国は好景気の波に乗つているようですね大巾な生産の上昇と比較的安定した物価によつて維持された。